

**園芸産地の維持・拡大と生産性の向上（ものづくり）**

# **南郷トマトの産地維持と 生産力の強化**

**南会津農林事務所農業振興普及部**

- ・南郷トマト生産組合は、令和4年に栽培60周年を迎えた歴史ある産地。
- ・「南郷トマト」とは、下郷町、只見町、南会津町産で、JAに出荷された夏秋トマトのこと。

表1 南郷トマトの主なできごと

|      |                     |
|------|---------------------|
| S37  | 南郷村※でトマト栽培開始        |
| S41  | 伊南村※、只見町でも栽培開始      |
| S48  | 南郷トマト生産組合結成         |
| S51  | 南郷村※に選果場を設置         |
| S62～ | ハウス栽培への転換           |
| H元   | Iターン就農者の受入開始        |
| H5   | カラーセンサーを備えた選果機を導入   |
| H6   | 初の販売金額10億円突破        |
| H15  | 雪室予冷庫等を備えた選果場を建設    |
| H23  | 東日本大震災、新潟・福島豪雨により被災 |
| H27  | 日本農業賞大賞受賞           |

※現南会津町

南郷トマト生産組合（以下、「生産組合」）

事務局：JA会津よつば

みなみ西部営農経済センター

組合員数：105戸

栽培面積：31.4ha

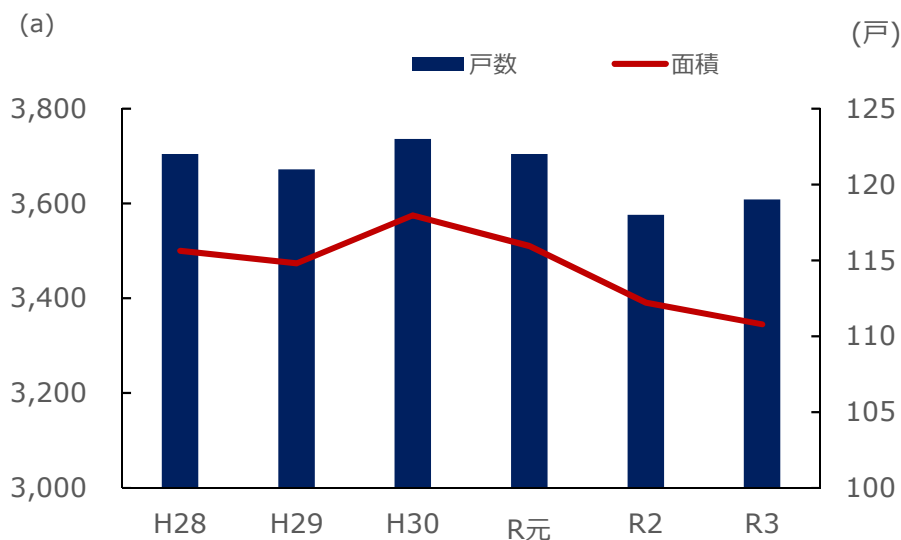


図3 生産者数と栽培面積の推移

## 《産地の課題》

生産者数・栽培面積が減少

生育後半を中心に収量が低下傾向

物価高騰等により生産者の所得が減少気味



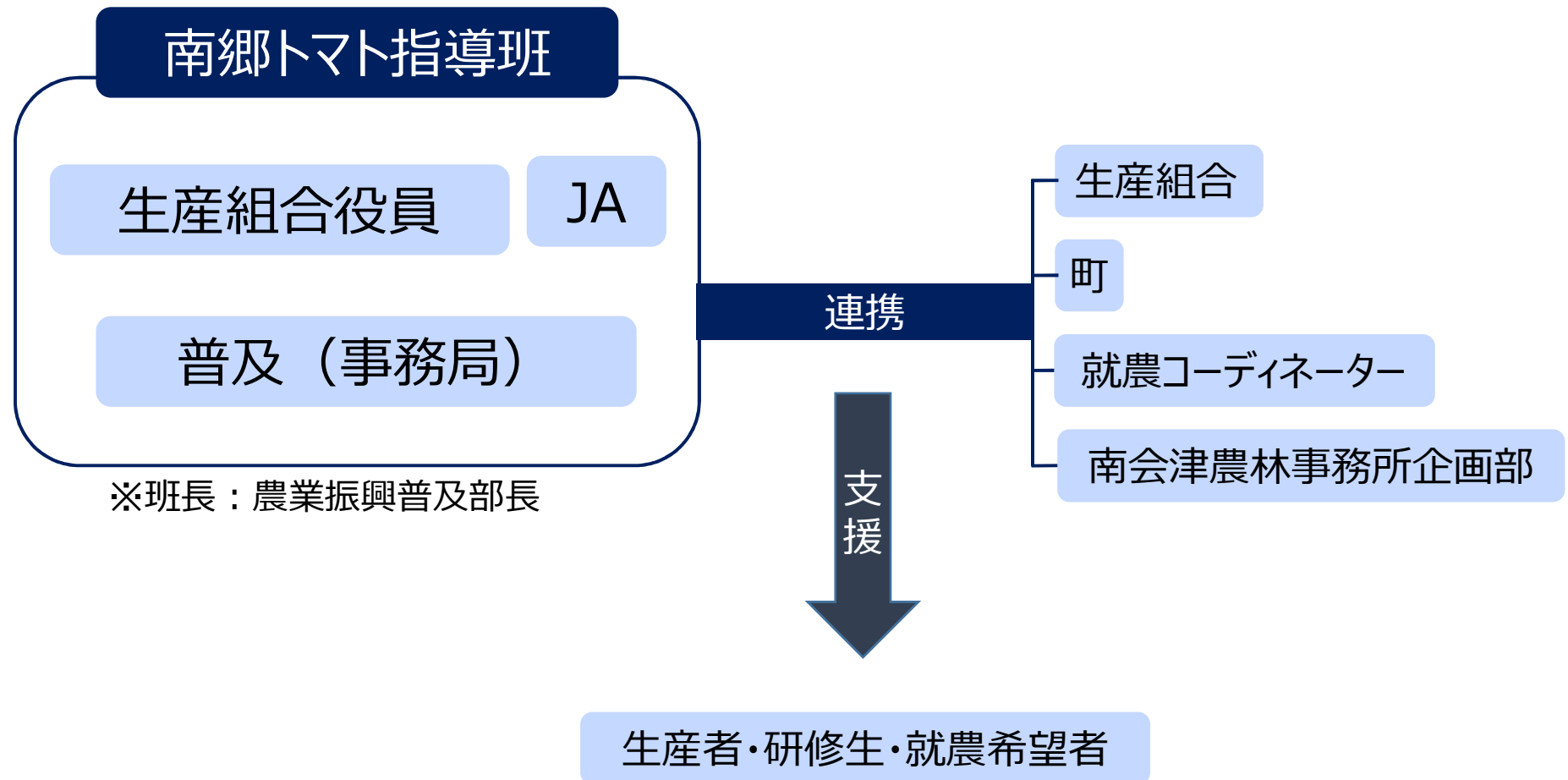
## 《普及活動のねらい》

(ねらい1)  
産地規模の維持を図る！

(ねらい2)  
単収と品質を向上させる！

(ねらい3)  
ブランド力を強化する！

**南郷トマト産地の維持・発展ともうかる農業の実現を図る！**



※「南郷トマト指導班」が技術的な支援方針を決定  
生産組合、行政機関、就農コーディネーターの他、市場や販売店も含めた  
「チーム南郷」として一丸となって産地を振興！

## 1 産地規模の維持に向けた取組

### (1) 新規就農者の確保・育成

○あらゆる機会を捉えて新規就農を呼び掛け



半農半Xの生活をSNSで紹介

○就農意欲を喚起



JA、町、普及等で相談継続

○就農意思の最終確認



チェックリストで  
もれなく心構え  
を確認

研修へ  
(2年間)

## 1 産地規模の維持に向けた取組

### 就農前

#### ○就農研修生の技術取得支援



研修期間中に、研修受入農家、JA、町、就農コーディネーターと連携して  
ほ場準備や青年等就農計画の作成などの就農準備をサポート

### 就農後

- 就農2年目までの生産者を重点指導対象として指導  
→ JAと普及が週1回程度の巡回による技術指導を実施

# 活動内容

## 1 産地規模の維持に向けた取組

### (2)生産者の規模拡大

#### ○栽培ほ場の団地化と規模拡大

農地中間管理機構関連農地整備事業 只見町梁取地区への支援



(写真)  
トマトハウスの移転計画打ち合わせ

- ・ほ場整備を契機に点在する生産者6名のトマトハウスを団地化（園芸団地の形成）
- ・トマトを休作せずにパイプハウスを撤去・移設・新設
- ・トマト栽培面積の拡大  
（現状）3.7ha → （整備後）6.2ha

## 2 単収および品質向上のための取組

### (1) 新品種「桃太郎みなみ」の導入

JAや生産組合とともに、種苗メーカーの有望系統を試験栽培し、裂果が少ない新品種「桃太郎みなみ」の導入を決定。(H30～R4)

※R5に「桃太郎みなみ」を本格的に導入（全面積の79%）

（支援策）栽培前の勉強会、栽培期間中の現地指導会、  
若手生産者と協力した生育特性の調査とその結果の報告



栽培前の勉強会



現地指導会



若手生産者による事例報告



## 2 単収および品質向上のための取組

### (2)秋期の収量確保

#### ○摘芯指導会の開催



9月上旬頃にトマトの生長点を止めて、開花しても出荷に結びつかない花を抑制。  
余分な開花をさせないことで、果実の充実を促進。

写真：摘芯指導会の様子

#### ○病害等の被害抑制



青枯病対策や高温対策の遮光資材の効果を調査するため、若手生産者と連携して調査ほ場を設置し、その効果を検証。

写真：転炉スラグによる青枯病対策試験の様子

# 活動内容

## 青枯れ病対策試験の結果



対照区（上）と試験区（下）の様子（9/4撮影）

日本農業新聞 2023年(令和5年)12月18日(月曜日)

### トマト青枯病に転炉スラグ

## 化学農薬に頼らず軽減

みどりの一歩

転炉スラグ資材散布の試験区は、トマトの栽培中、低い発病率を維持していた

| 調査日   | 対照区 (%) | 試験区 (%) |
|-------|---------|---------|
| 8月10日 | 12.2    | 0.6     |
| 9月10日 | 51.9    | 6.5     |
| 10月4日 | 64.7    | 13.5    |

上臈り日矯正が奏功

日本農業新聞に掲載 (12/18)

## 3 ブランド力強化の取組

### ○JGAP団体認証の取得を推進

JGAP取組開始

先発隊31戸がJGAP  
団体認証を取得  
総会で全員が取得  
することを決議（R元）

R5の取組

12名が新規認定に取り組み  
認証取得となった。  
取得率  
87戸／105戸 ÷ 83%

次年度の取組

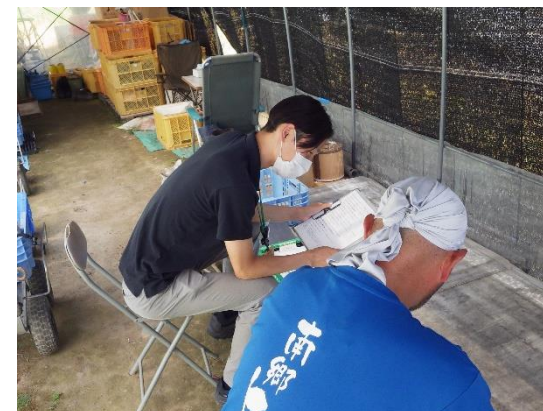
**全戸で取得する！**



役員や新規取組者に対する  
研修の開催



内部監査の実施  
役員が「内部監査員補」



新規取組者を中心に  
普及が個別支援を実施

# 活動成果

## 成果測定事項 1 新規栽培面積（単位：a/年）

| 現状（R4実績） | R5目標 | 結果（R5実績） | 実績評価 |
|----------|------|----------|------|
| 40.7     | 50   | <u>5</u> | D    |

### ※参考

R5は、南郷トマトの新規栽培者がいませんでした。  
今春、若い生産者が1名新規就農予定で、3組  
の就農希望者が、就農前研修を開始します！

# 活動成果

## 成果測定事項 2 単位収量（単位：t / 10a）

| 現状（R4実績） | R5目標 | 結果（R5実績）    | 実績評価     |
|----------|------|-------------|----------|
| 8. 2     | 9. 4 | <u>8. 5</u> | <b>D</b> |

### ※参考

令和5年産の県内主要トマト産地の単位収量は、前年に比べて約15%ダウン。（園芸課調べ）



南郷トマトは前年比4%アップし、安定した収量を確保しました。

# 活動成果

## 成果測定事項 3 第三者認証GAP取得率

(単位：%、認証戸数/生産組合戸数)

| 現状 (R4実績) | R5目標 | 結果 (R5実績) | 実績評価 |
|-----------|------|-----------|------|
| 69        | 90   | <u>83</u> | C    |

### ※参考

R5上半期の新規GAP取得経営体数 17経営体  
(環境保全農業課調べ)

このうち、約6割 (10経営体) が、南郷トマト生産者です！

R6には、生産組合全戸がGAPを取得します。

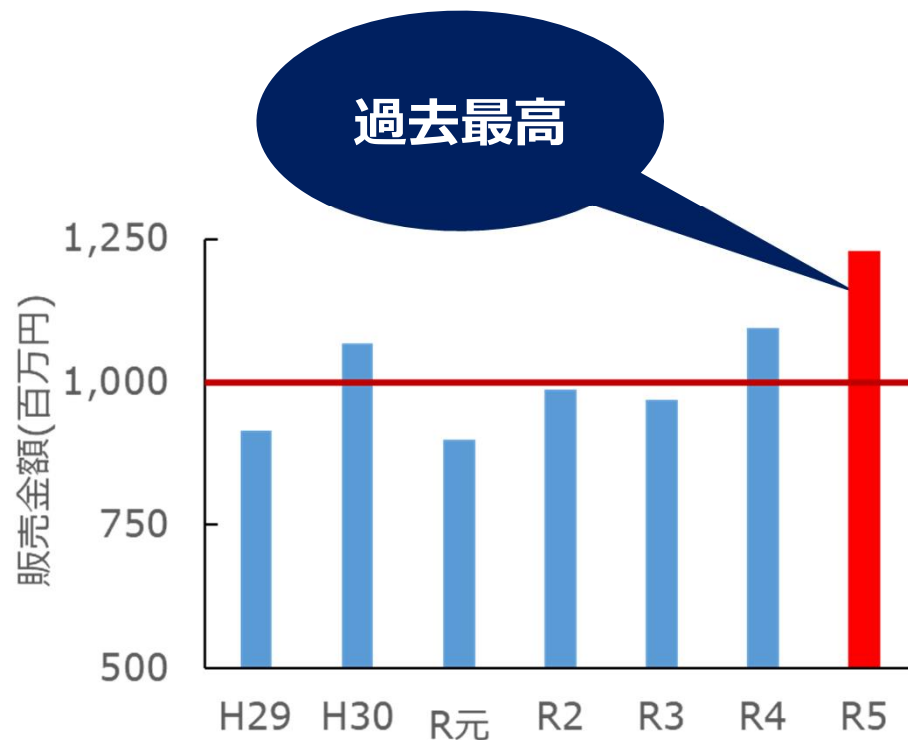


図7 生産組合の販売金額の推移

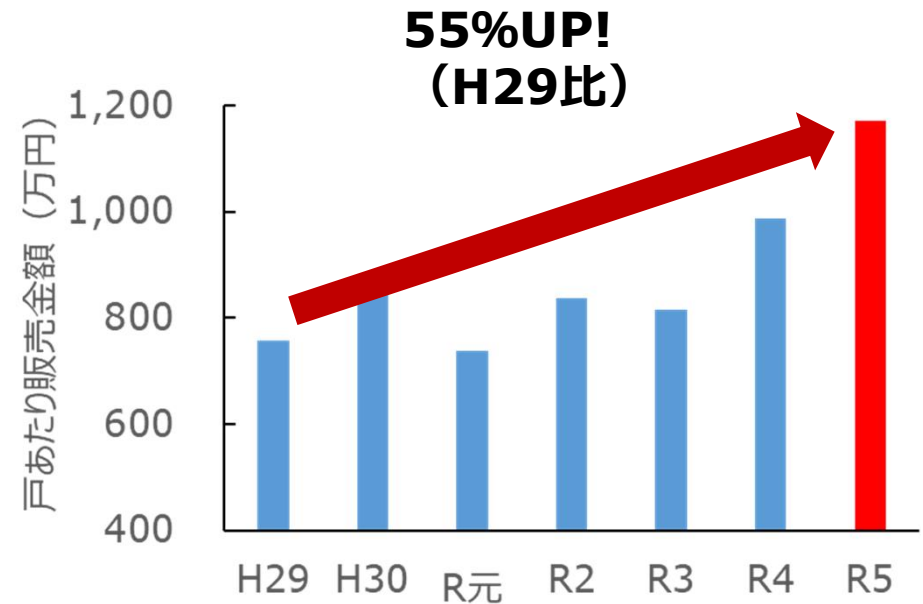


図8 1戸当りの販売金額

★ R5の南郷トマト販売金額は過去最高の12億2900万円

★ 1戸あたり販売金額が大幅に増加（一戸平均1,170万円）

**もうかる農業が実現！**

## 【新たな課題】

- ・労力不足が、既存生産者の規模拡大の障害に・・・
- ・高温による花落ちや果実品質の低下が増加している・・・
- ・JGAP団体認証を全員が取得した後の販売対策の検討・・・

↓  
今後は

## 【方向性】

- ・多様な労働力確保による産地規模の維持・拡大支援
- ・気候変動に合わせた高温対策技術等（ミスト等）の導入検討
- ・多様なツールの活用による販売力の更なる強化

**南郷トマト「100年産地」を  
目指して産地支援を継続！**